

731部隊の史実を語り継ぐ連続学習会・第9回

「731部隊を追究する市民運動

—ABC企画委員会のおゆみ—」

日 時：1月29日（土）14：30～

お 話：若林成士さん、和田千代子さん

# 731部隊、未決の戦争責任を追究する ABC企画委員会とは？

- 核兵器・原発 (アトミック) 「A」 Atomic (原子) \*核は Nuclear
- 細菌戦・生物兵器 (バイオ) 「B」 Biological
- 毒ガス・化学兵器 (ケミカル) 「C」 Chemical
- 各兵器の頭文字をとって全ての戦争に反対する意味から、「ABC企画委員会」としました。

# ABC企画委員会事務所移転

- 1992. 7～1998. 4初旬 東京都新宿区高田馬場4-28-31-205  
JR山手線・西武新宿線 高田馬場駅
- 1998. 4初旬～2000. 12 東京都中野区中野2-13-21-102  
JR中央線・東京メトロ 中野駅
- 2001. 1～2007. 11 東京都小平市学園西町 1-26-43
- 2007. 12～現在 東京都小平市学園西町 1-22-15-101  
西武多摩湖線 一橋学園駅

# ABC企画委員会関連年表 (1)

- 1992年7月 「731部隊展」全国実行委員会結成
- 1993年7月 第1回「731部隊展」開催、全国巡回展へ始動開始
- 1994年6月 「731部隊陳列館新館建設と現場保存」募金の会発足
- 1995年8月 中国・ハルビンにて「731部隊国際シンポ」開催。「侵華日軍731部隊罪証陳列館・新館」完成
- 1996年1月 「毒ガス展」実行委員会結成
- 1996年8月 大久野島にて「毒ガス国際シンポ」開催
- 1996年9月 第1回「毒ガス展」開催、全国巡回展へ始動開始
- 1999年3月 「戦争ってナンダ展」開催。(30団体と共催)
- 1999年8月 黒龍江省档案馆で731部隊『特移扱』文書資料発見、一般公開
- 1999年9月 「731部隊展実行委員会」と「毒ガス展」実行委員会を合併し「ABC企画委員会」に改称
- 1999年12月 「731部隊遺跡保存の会」を改め「731部隊遺跡世界遺産登録を目指す会」に改称

## ABC企画委員会関連年表 (2)

- 2000年8月 「いつかきた道展」開催。(20数団体と共催)
- 2001年12月 黒龍江省档案馆資料『731部隊罪行「鉄証」  
— 関東憲兵隊「特移扱」文書』を出版発行
- 2003年9月 吉林省档案馆資料『731部隊罪行「鉄証」  
— 特移扱・防疫文書編集』を出版発行
- 2004年7月 新「毒ガス展」パネル40枚完成
- 2005年7月 新「731部隊展」パネル40枚完成
- 2011年7月 中国・731部隊本部に『謝罪と不戦平和の誓い』の碑を  
建立
- 2012年7月 20周年記念「過去からいま、未来へつなぐ」開催、  
中国社会科学院前所長歩平氏講演
- 2013年11月 731部隊関連資料『衛生学校記事』の情報公開を求めて  
東京地裁に提訴
- 2016年2月 「ABC企画ニュース」100号発行
- 2019年 第25回ABC企画スタディーツアー実施

# ABC企画委員会発行のニュース

- 731部隊展NEWS 第1号1995. 7. 13～第6号1997. 2. 20

発行 新宿区高田馬場 731部隊展実行委員会

- 毒ガス展ニュース No. 1 1996. 2. 18～No. 6 1996. 8. 21

発行 千葉県柏市(梅 靖三方) 毒ガス展実行委員会

毒ガス展NEWS No. 7 1996. 11. 17～No. 9 1997. 2. 15

発行 高田馬場 731部隊展実行委員会内

- 731部隊展 毒ガス展【合同】NEWS 第1号 97. 3. 20～

第9号 99. 9. 20 発行 第7号まで高田馬場 第8号～中野

- ABC企画NEWS 第10号 99. 12. 1～第134号 2021. 12

発行 第13号 2000. 8. 10迄 中野区中野

第14号 2001. 1. 25～ 小平市学園西町

# 731部隊展 NEWS

第1号

1995年7月13日発行

## したたかな展示行動へ

事務局長 三嶋静夫

2月に「20万人の目撃者・未来を語るために・731部隊展メモリアルイベント」を開催してから、早くも5カ月近く。

その間に運営委員会や事務局会議を重ねつつ、水面下では第2次巡回展の再スタートをめざし、各地へ呼びかけてきました。

その結果、年末までに別掲の7カ所で731部隊展の開催が決まり、いま10カ所から問い合わせがきています。

今後とも地道に働きかけ、したたかに展示会の拡大、発展を図ります。全国からの厚いご支援とご協力を、ぜひお寄せ下さい。

## 展示会場のご紹介

各地から寄せられた力強いご支援を土台にして、7月下旬から第2次「731部隊展」の巡回が始まります。貸し出し料金は、1会場・1週間を基本にして30万円。短期間の開催には、事務局で折衝します。

7月23日～8月6日 15日間

伊丹市中央公民館

伊丹市主催

TEL 0727-84-8148 (村田)

8月10日～16日 7日間

広島・向島中央公民館

向島町主催

TEL 0848-44-0110 (浜谷)

8月20日～23日 4日間

横須賀市文化会館

神奈川人権センター・横須

賀実行委員会主催

TEL 0468-24-2442

(三浦半島教職員組合)

8月25日～27日 3日間

フォーラムよこはま

神奈川人権センター主催

TEL 045-773-2250 (高橋)

8月29日～9月3日 5日間

大和市桜丘文化会館

神奈川人権センター・平和を

つくる大和市民の会主催

TEL 045-773-2250 (高橋)

10月 長岡 11月 柏

## 毒ガス展実行委員会

事務局 千葉県柏市つくしが丘5-1-4 梅 踏 三 方

☎・FAX 0471-73-0284 (〒277)

郵便振替 00140-7-59255 毒ガス展実行委員会

## 「毒ガス展実行委員会」結成総会報告

総会は1月28日(日)午後1時より、新宿区役所・区議会第2委員会室で開きました。

吉見義明中央大学教授の記念講演を聴いた後、三嶋静夫731部隊展事務局長の司会で元山俊美氏を拍手で議長に選出し、各議案とも活発な討論を経て承認され、「毒ガス展実行委員会」として活動を始めることになりました。「731部隊展」に続き、みな様の一層のご支援と、ご協力をお願い申し上げます。なお平塚黒龍江省社会科学院副院長より祝辞が寄せられました。

## 三嶋静夫731部隊展事務局代表挨拶

遅塚でございます。今日「毒ガス展実行委員会」結成総会を迎えましたけれども、この「毒ガス展」をやっているうちに、ということになった流れは、「七三一部隊展」を全国展開していく中で、当然避けて通れないような形で毒ガス問題が出てきたわけです。

昨年夏、「七三一部隊国際シンポジウム」がハルビンで開かれたときにも、毒ガス問題が独立の分科会となりまして、その中から、——私、実は国際シンポジウムに参加していないんですけども——毒ガス問題は昔あったことではないんだ。現実に被害者が出ているし、現在の問題としての毒ガス、これをきちっと認識していかなければならないと考えました。そして、その後、私は山辺さんと一緒に中国東北地方の被害をみてまいりました。数人の被害者の方にお会いして、その実態も診てきました。

その報告会の中から、これはもう単発的に被害の調査をしたり、それに対する補償を政府に要求するのをお手伝いするようなことだけでは済まない問題だと、やはりこの際、「もっと『七三一部隊展』を上回るような規模で、全国にこの問題の所在を明らかにして、運動を広げて行こうじゃないか」ということで、どういう形でやるのかという議論の中から「『毒ガス展実行委員会』という形でやろう」ということになりました、今日まで色々協議してきたのです。

では、いままぜ「毒ガス展」をやるのかということですけども、これは先ほどから吉見先生のお話、それから三嶋さんのご挨拶、元山さんのご挨拶、みなさん共通のものがありますけれども、いかにして責任を負わずに、時効のほうへ逃げよう逃げようとしている日本政府の責任を明らかにして、そして、歴史的な事実としてみんなが認識していくようにする必要がある。これはもう時間が限られているんですね。中国帰還者連絡会の方をはじめ、実際に戦場で毒ガス戦に参加した方ももう高齢になりはじめてますし、きちんとした証言を得られる最後のチャンスじゃないか、ということでも「毒ガス展」を全国で展開して、その毒ガスを使ったということがちっとも戦争の中で異常なことだと思っていない方が実は多いと思うんですけども、そういう方にこれは非常に特殊なことなんだと、やはりそれは歴史的な証言としてぜひ語っていただきたい、残していただきたいということをお呼びかけて行きたいと思っております。

なぜそれをやるかと言うと、それは当然これから社会を創っていく若い世代へ伝えるためにあるわけです。ですから、この毒ガス展実行委員会にはぜひ若い世代の方にどんどん入ってきていただいて、そういう流れを創っていただきたい、そういうふうにお思っております。そのことが恐らく自分たちの先輩たちがやったことを知りもしないでまた同じ轍を踏むということを、予防する、戦争を抑止する、そして今後の日中友好を不動のものにしていく第一歩だと思います。

今日お集まりの方と共に、もっともっと広範な人に呼びかけて、この「毒ガス展」を成功させたいと思っております。ぜひ今日の日を改めて決意の日としていただいて、みなさん一緒に目的達成のためにがんばりましょう！

# 731部隊展 毒ガス展

【合同】 **NEWS** 新創刊第1号

いま東京・中野では、3月25日から開く「毒ガス展」の最終盛り上げに、実行委員と賛同者らが一体になって、職場や学校訪問、街頭のチラシ配りなどにとりくんでいる。

すでに賛同37団体、個人589人に達して、「この熱気を展示会の本番につなげよう」と、懸命の努力中だ。

## 展示パネルを一部修正

資料の出展を明示、表題も簡潔に

一方、実行委員会・展示製作部では、新宿展（97/9）と広島展（97/12）の実績や教訓、指摘事項などを検討した結果、①表題を簡潔に改める、②記述の誤りを直す、③資料や写真の出展を明示することなどを重点にして、展示パネルの一部を修正した（中野展から掲載）。

また、展示パネルの記述文章や写真説明、防毒マスクなどを見た人たちから「むつかしい」と批評が寄せられているため、毒ガス展のパンフレット（200円で頒布中）のほかに、参観する人たちに理解を深めてもらうガイドブックを作成することにした。

## 《開催が決まった毒ガス展会場と日程》

◎鹿児島展：4月29日（火）～5月6日（火） 鹿児島県文化センター  
鹿児島市山下町5-3 ☎099-223-4221

連絡＝鶴田恒郎 ☎099-264-0640

◎大阪展：5月24日（土）～6月8日（日） ピース大阪

大阪市中央区大阪城2-1 ☎06-947-7208

連絡＝全日建連帯関西生コン支部 ☎06-583-5548

# ABC 企画 NEWS

第10号

731部隊・毒ガス展の開催，未決の戦争責任を追求する

## — 高校・大学の文化祭で 「初めて知った」「なぜ教えないの？」

### — ABC企画に新風吹き込む声 —

今年の9月1日から731部隊展と毒ガス展の両実行委員会を統合して新たなスタートを切ったABC企画委員会の活動が、3カ月を経過した。

当初は（核兵器=A）と（生物兵器=B）と（化学兵器=C）の頭文字をとった「ABC企画委員会」の馴染みがうすく、「731部隊展と毒ガス展の実績を土台にして、《侵略戦争の歴史事実を検証しつつ、未決の戦争責任を問いたす》幅広い活動を展開していく。展示活動は一層の充実と積極的な開催地の拡大をめざす」と応えて、ほぼ理解してもらった状況が続いた。

10月に入ると大阪・阿倍野高校の文化祭、大阪高教組・教育研究集会で展示、東京・東村山中学校の文化祭と立て続けに「731部隊ミニ展」が開かれた。

11月には大阪・桃谷高校の文化祭でミニ展を活用し、明治大学・生田校舎の文化祭では「旧陸軍登戸研究所（細菌戦・毒ガス戦の研究とニセ札造りに深く関わった）と731」をテーマにしたシンポジウムとあわせてミニ展が開かれた。

また「黒い太陽七三一」「日本鬼子のおきみやげ」「南京1937」などのVTRも各地の文化祭で広く上映されると共に、社会科の授業に活用するとりくみもあり、青少年の間で少しづつ侵略戦争の事実を知る機会が増えだした。

続く12月には、奈良・創価大学の文化祭で「国交平和と731」フォーラムと並行したミニ展の準備がすすんでいる。

こうしたとりくみを通じて、ABC企画の事務局には「残虐な戦争の事実を隠さずに、学校で教えて欲しい」「初めて731を知った。戦争は人間をどこまで狂わ

（次ページに続く）

# 731部隊とは？

・正式名称は関東軍防疫給水部。1932年に陸軍軍医学校に「防疫研究室」を設立。中国・背蔭河に「東郷部隊」を設置し小規模な人体実験を開始した。

1936年、陸軍中央の承認の下（軍令甲7号）関東軍の隷下に編成された。38年6月、ハルビン郊外の平房地区一帯、6平方キロに亘る広大な地域を「平房附近特別軍事地域」として住民を強制的に立ち退かせ日中戦争の長期化、更に対ソ戦の脅威をにらんで細菌研究、実験、製造の巨大な悪魔の施設（731部隊）を作りました。

憲兵隊は抗日戦士らを捕らえ、裁判にかけることなく『特移扱（とくいあつかい）』として731部隊に送り込んだ。表向きの防疫給水活動の陰で実際には3000人以上の中国人、ロシア人、朝鮮人、モンゴル人を使って細菌・凍傷・毒ガス等の人体実験を行い、全員を殺害した。これらを担ったのは石井四郎を中心とする軍民の医学者たちである。

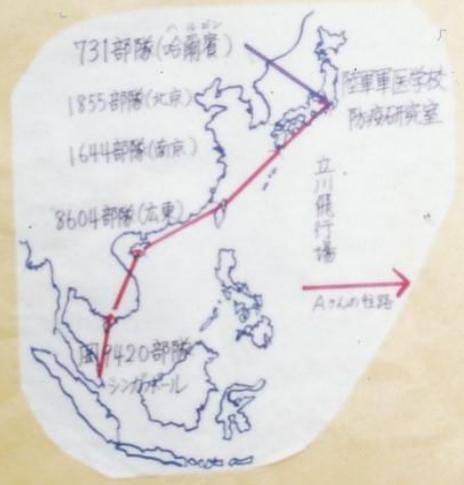
製造された細菌（主にペスト菌）は浙江省、湖南省、江西省、吉林省など中国各地での細菌戦に使われ多くの死者を出した。

戦後、部隊員はアメリカとの取引（データ提供）によって罪に問われることなく、多くの医学者は医学界に復帰し、その中枢を占めた。また東京裁判で起訴されなかった為731部隊の真実は明かされることなく、闇に葬られたままである。

# 「731部隊展」全国巡回



# 731部隊と立川

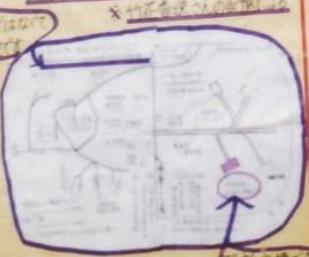


シンガポールには、中国以外では唯一の731部隊の姉妹部隊が置かれた

## 私は立川から細菌戦用のネズミを運んだ

私は召集で水戸州に行き除隊後に731部隊の軍属として霍乱水7スホに属し武蔵野線沿いにカネカ水質検査給水、防疫などに携わっていました。昭和17年に南加にできた第1420部隊の所属となり本部から新加坡に赴き現地人を使い、人を培養するためのネズミなどの飼育にあたりました。昭和19年10月に東京の陸軍軍医学校へ「特殊衛生材料」を運ぶためについでシンガポールから飛行機で立川に向い、陸軍軍医学校の防疫班に所属しました。3日の休暇のあと、10月24日に731部隊の飛行機でシンガポールに運びました。11月まで3回この運搬に携わりました。私達の行動はもろく大秘密なので立川飛行場で働く人々には知らず、

第1420部隊の細菌戦用施設



ネズミは埼玉県の農村で飼育した数頭を1回に数匹運搬し、現地では風を通しました。大本営から7の米軍に対する作戦は実行され、選りすぐった細菌を

培養槽で育ったネズミは1週間の培養期間があった







非常口

10年  
52次

'93 9 18



労働者支援会 定例 創立委員会開催！  
労働者支援会（以下「支援会」とする）は、労働者の権利の擁護と労働条件の改善を目的として、労働者、労働組合、労働関係機関等と連携し、労働者の権利の擁護と労働条件の改善に取り組むこととする。本会は、労働者の権利の擁護と労働条件の改善を目的として、労働者、労働組合、労働関係機関等と連携し、労働者の権利の擁護と労働条件の改善に取り組むこととする。本会は、労働者の権利の擁護と労働条件の改善を目的として、労働者、労働組合、労働関係機関等と連携し、労働者の権利の擁護と労働条件の改善に取り組むこととする。



# 日本と中国 語り合う毒ガス問題

2005年10月15日

ABC企画委員会

三嶋静夫氏

通訳  
張宏波氏

高 敏 薫 氏

北 山 一 郎 氏

日 輪 光 弘 氏

天 口 公 彦 氏



# 日本軍の毒ガスとは？

- 1914年から18年の第1次世界大戦で、初めて毒ガス兵器が使われた。  
特に17年、イープルでドイツ軍が使用したイペリット（毒ガスの王様と言われている）は大勢の犠牲者を出した。
- 1925年、毒ガス使用（細菌兵器も含む）を禁止するジュネーブ議定書が結ばれ日本も調印した。しかし日本軍部は18年、陸軍軍医学校に化学兵器研究所を設置し、毒ガス兵器研究・開発・製造・使用へと拡大していった。
- 陸軍は広島県の大久野島で製造し、北九州の曾根兵器製造所で砲弾に詰め、中国戦線に送った。  
化学戦の指導将校を養成するため「陸軍習志野学校」も創設した。
- 海軍は相模海軍工廠でイペリットなどの毒ガス研究・製造を行なった。
- 旧日本軍による毒ガス生産量は合計7376トンといわれているが、中国に運ばれた毒ガスの量は不明である。敗戦時、日本軍は国際法に違反して使用したことを隠蔽するため、残った毒ガスを中国各地（日本国内にも）遺棄した。
- 遺棄毒ガスは今、日本、中国各地で発見・発掘され戦争に関わりのない市民に被害を与えている。日本政府は一日も早く遺棄毒ガス処理し被害者への医療補償を行なうべきである。

50年以上も隠されてきた秘密を大公開！

1996年・秋～  
全国各地で開催

極秘



旧日本軍が  
侵略戦争で使い  
中国に残してきた  
毒ガス弾の被害は  
今も続いています  
——そして、日本でも？



POISON GAS EXHIBITION

# 毒ガス展

"化学兵器の歴史と廃絶への道"  
はいぞつ



〈もくじ〉	ページ
「毒ガス展」開催にあたって	2
化学兵器の誕生と国際法	4
日本軍は毒ガス戦をいかに準備したか	6
毒ガスを日本でどう造ったか	8
毒ガス兵器を中国でどう使ったか	10
50年たった今も残る毒ガス被害（中国・日本）	12
結び「これ以上被害を増やさないために」	15
参考文献一覧・連絡先	16

企画／制作  
毒ガス展実行委員会

# 「毒ガス展」開催にあたって

松本・地下鉄サリン事件で、私たちは毒ガスの恐怖におびえました。現在、その裁判の行方が注目されていますが、50年以上前、この日本が毒ガスを製造し、中国への侵略戦争で使った事実を知る人は少ないと思います。それもそのはず、日本政府は長年このことを政治的タブーとして隠しつけてきたからです。この問題を歴史的に検証するために、全国の有志が集まり、1996年1月28日に毒ガス展実行委員会を結成いたしました。

毒ガスの被害は、あの忌まわしい原爆と同じくらい悲惨なものです。日本軍は国際法に違反して2千回以上にわたり毒ガスを使用、中国側に9万人以上の死傷者をもたらし、さらに推定2百万発もの毒ガス兵器を中国各地に捨ててきました。それらは未処理のまま、中国の住民に多大な被害を与えつけてきたのです。加えて、地中で漏れ出した毒ガスによる環境汚染など、毒ガス兵器は依然として新たな被害を起こす可能性があります。

私たちはこれらの問題を他人事と考えてよいのでしょうか？ いいえ、実はあまり知られていませんが、毒ガス兵器は日本国内の海や湖にも捨てられているのです。また毒ガス製造に従事し、50年たった今でもその重い後遺症に苦しむ人々がいます。結局、いつの時代も被害を受けて悲しい思いをするのは、罪のない一般市民です。明日は我が身——ぜひそんな気持ちで、この問題を考えてください。

「毒ガス展」は全国巡回展とし、1996年9月から開催、実物の毒ガス製造装置や日本軍文書、パネル、写真などを展示し、広く伝えていく計画です。

毒ガス展実行委員会 代表 塚塚令二

## 中国からの後援

中国人民抗日戦争記念館/侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館/九・一八記念館/東北烈士記念館/黒龍江省革命博物館/吉林省偽皇宮陳列館/冉庄地道戦記念館/北京市対外友好協会/北京国際友好聯絡会/黒龍江省対外友好協会/中国国際交流協会/河北大学/東北滄州十四年史総篇室/黒龍江省社会科学院/吉林省社会科学院/遼寧省社会科学院

## 参考文献一覧

- 〈資料・単行本〉  
 『毒ガス島』樋口健二写真集 三一書房 1983年  
 『生物化学戦争』S.マーフィー、A.ヘイ、S.ローズ著 現代教養文庫 1985年  
 『地固から消された島——大久野島毒ガス工場』 武田英子著 ドメス出版 1987年  
 『私たちは中国でなにをしたか』中国帰還者連絡会編 三一書房 1987年  
 『毒ガス戦関係資料』粟屋憲太郎・吉見義明編、解説 不二出版 1989年  
 『七三一部隊作成資料』田中 彰・松村高夫編、解説 不二出版 1991年  
 『毒ガス島の歴史(大久野島)』村上初一著 1992年  
 『隠されてきた「ヒロシマ」——毒ガス島からの告発』辰巳知司著 日本評論社 1993年  
 『七三一部隊の功罪～中国人民は告発する』韓曉著 山辺悠喜子訳 三一書房 1993年  
 『ヒロシマから生物・化学兵器を考える』東方2001 広島教育会館 1993年  
 『消された秘密戦研究所』木下健蔵著 信濃毎日新聞社 1994年  
 『論争』731部隊 松村高夫編 晩聲社 1994年  
 『未決の戦争責任』粟屋憲太郎著 柏書房 1994年  
 『幻ではなかった本土決戦』歴史教育者協議会編 高文研 1995年  
 『日本の中国侵略と毒ガス兵器』歩 平著/山辺悠喜子、宮崎教四郎監訳 明石書店 1995年  
 『毒ガスと科学者』宮田親平著 文春文庫 1996年  
 『謎の毒薬 推究帝銀事件』吉永春子著 講談社 1996年  
 『日本軍の細菌戦・毒ガス戦』七三一部隊国際シンポジウム実行委員会編 明石書店 1996年  
 『日本軍の化学戦』紀学仁主編 村田忠將訳 藤原彰・粟屋憲太郎解説 大月書店 1996年  
 『神奈川県戦争遺跡』神奈川県歴史教育者協議会編 大月書店 1996年  
 『毒ガスの島 大久野島 悪夢の傷跡』中国新聞毒ガスの島・取材班著 中国新聞社 1996年  
 『日本軍の遺棄毒ガス兵器』高曉燕著 山辺悠喜子、宮崎教四郎訳 明石書店 1996年  
 〈論文〉  
 『七三一部隊——細菌戦と化学戦』粟屋憲太郎～『歴史学研究』531号、1984年7月号  
 『「731部隊」の実験報告書』松村高夫 ～『歴史学研究』538号、1985年2月号  
 『毒ガス戦の真実』粟屋憲太郎・吉見義明 ～『世界』1985年9月号  
 『日本軍遺棄毒ガス問題』吉見義明 ～『戦争責任研究』12号、1996夏季号

## 「毒ガス展」ポスター

化学兵器の歴史的検証と廃絶をめざす  
 毒ガス被害の思いは今も残っており、日本軍が中国に製造した大量の毒ガスは、現地の住民の心に残り、さらには大地を汚し、ふたつた大久野島(広島県)の元法皇宮に後遺症がつく、環境の汚染めざし、侵略戦争と毒ガスを歴史検証。

# 毒ガス展

## POISON GAS EXHIBITION



協力券 500円  
 ☎03-5380-5166

1996年9月10日(火)～16日(月)  
 午前10時～午後6時(16日午後3時まで)  
 新宿区民ギャラリー

主催:毒ガス展実行委員会 協賛:新宿区・新宿区教育委員会・財 新宿区国際文化交流協会  
 企画:毒ガス展実行委員会 後援:日中友好協会全国本部 特別協賛:中国帰還者連絡会、毒ガス島歴史研究会、731部隊国際シンポジウム実行委員会、日中国際文化交流協会、広島県教育委員会、広島平和教育研究所、特別人権センター、中国からの後援:北京国際友好聯絡会、中国国際交流協会、侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館、北京市対外友好協会、黒龍江省社会科学院、遼寧省社会科学院、吉林省社会科学院

DESIGN BY M.TOMODA

## 毒ガス展開催

★ 申し込み ★  
 ★ 受付中! ★

## 毒ガス展実行委員会・連絡先

東京連絡事務所/  
 ☎169 東京都新宿区高田馬場 4-28-31-205  
 731部隊展実行委員会内  
 Tel.Fax.03-5380-5166  
 (郵便振替00140-7-59255 毒ガス展実行委員会)

広島連絡事務所/  
 ☎732 広島市東区光町2-8-32エコー道広島  
 広島平和教育研究所

Tel.082-264-1751  
 Fax.082-264-1757





# 「過去からいま 未来へつなぐ」

(細菌戦部隊)  
— 731部隊・毒ガス戦・核兵器を考える —



731部隊全景

**パネル展** (講演&映画は裏面参照)

12月13日(金) 10:00 ~ 19:00

14日(土) 10:00 ~ 19:00

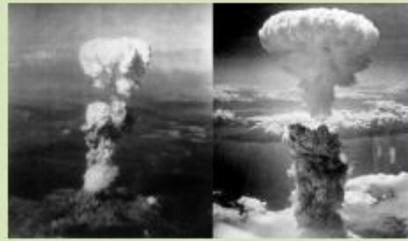
15日(日) 10:00 ~ 17:00

(於) なかのZERO・西館美術ギャラリー

入場無料 (パネル展)



毒ガス戦



原爆 (パネルは中野区所有のものを借用展示)

## なかのZERO アクセス→

(JR中央・総武線「中野駅南口」下車 徒歩8分)



## 連絡&問合せ先

ABC企画委員会:小平市学園西町1-22-15-1F(市民自治こいだいら内)

電話/FAX:042(348)1127 又は 080-5655-3354, <http://abckikaku.web.fc2.com/>)

731部隊の歴史事実・遺棄毒ガス問題を追究する

主催: ABC企画委員会

協賛: 731部隊展中野実行委員会

戦争の足音が...

1930年代、日本は国際法を無視し、731部隊等では、生体実験を繰り返しながらさまざまな細菌兵器を製造し、中国各地で実戦使用しました。その被害者遺族はいまなお日本政府に被害賠償をもとめています。

また、瀬戸内海の大久野島では毒ガスが製造され、これもまた国際法を無視し中国戦線で使用されました。中国東北部に遺棄された毒ガス兵器の処理作業はほとんど進んでおらず、戦後70数年を経た現在でも毒剤による甚大な被害が出ています。

そして、1945年8月6日広島、9日長崎に原爆が投下され、多くの一般市民が非人道な兵器の犠牲になりました。

いまなお、核兵器の開発に躍起になっている国もあり、人類の惨禍の反省は少しもなされていません。

いま、改めて731部隊・毒ガス戦・原爆投下のパネルを見ながら、細菌兵器、化学兵器、核兵器の使用された実態について考え、2度と使わない、使わせないようにするにはどうすればいいのか考えてみませんか?

## 映画会

13日(金) 13:30~、16:30~、18:30~

※13:30~小林開さんのお話・上映

小林開さん(奇跡への情熱プロジェクト 代表・プロデューサー)

入場料 1000円 (入れ替え制)

(於) なかのZERO 本館地下「視聴覚室」

『ひろしま』1953年製作

監督:関川秀雄 上映時間104分

1955年ベルリン国際映画祭 長編映画賞 受賞

広島県教職員組合と広島市民の全面的協力の下で制作されたが、当時、松竹は「反米色が強い」等の理由で一部カットを要求、しかし制作側は応じず、各地で自主上映されていたという。

近年の「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)、「核兵器禁止条約」批准発効を求める市民運動の広がりと共に、今、再び自主上映の輪が広がっています。2017デジタルリマスター版が完成。是非この機会にご覧ください。

1945年8月6日午前8時15分、広島に原爆投下。陸軍病院に収容された負傷者は、手の施しようもなく、狂人は脱出し、死体は黒山のごとく転がり、さながら生き地獄だった。しかし軍部は、ひたすら聖戦完遂を煽るのだった。...

自らも広島で被爆した教育学者・長田新が編集した「原爆の子〜広島の子〜」の少年少女の訴えを日教組が映画化、広島市民ら約8万8千人が出演し、原爆が投下された直後の惨状を再現した。

## 講演会

14日(土) 14:00~

(於) 西館・学習室「1」 資料代 500円

お話: 山内正之さん (毒ガス島歴史研究所事務局長 / 大久野島から平和と環境を考える会代表)

内容: 「大久野島と毒ガス戦」

旧日本陸軍は、1919年に陸軍化学兵器研究所を設立して組織的な化学戦の研究に着手。1929年には現・広島県竹原市忠海町大久野島に「陸軍造兵廠忠海兵器製造所」を設立し、本格的に毒ガス製造に着手した。大久野島で製造された毒ガスは北九州の「曾根兵器製造所」で砲弾に詰め、中国戦線に送られた。1937年7・7事変以降日中戦争の拡大によって、当時「地獄から消された島」、大久野島では周辺の町や島から大量の人員が動員され毒ガス製造は増大していった。元工員たちが大久野島で製造した毒ガスが中国戦線で実戦使用されていたことを知ったのは戦後何十年も経てからの事であった。被害と加害、表裏の顔を持つ大久野島。島の歴史と現在の状況等をお話させていただきます。







「過去からいま 未来をつなぐ」-731部隊・毒ガス戦・核兵器を考える-

# 講演会「大久野島と毒ガス戦」

お話 山内 正之さん 毒ガス島歴史研究所事務局長  
大久野島から平和と環境を考える会代表

2019年12月14日(土) なかのZERO 西館学習室・1- 主催ABC企画









# 一 「日本鬼子の置きみやげ～日本軍毒ガス戦の真実～」

## 上映と撮影&関係者のトーク

『日本鬼子の置きみやげ～日本軍毒ガス戦の真実～』(1997年/日本電波ニュース社) 監修：吉見  
頼明（中央大学教授）

演出・撮影：相馬一成

取材地：広島県大久野島、福岡県曾根、千葉県習志野。

：平頂山、阿城、哈爾濱、孫呉、チチハル、北垣村、西營郷、ジャムス、  
牡丹江、敦化。

ビデオは、日本軍の毒ガスの歴史から中国における毒ガス戦、逸棄毒ガス問題まで幅広く  
取上げている。特に1994年1月、黒龍江省社会科学院（当時）の歩平さんと共に調査に  
入った「ハルバ嶺」、「孫呉」山中に散乱する逸棄弾調査は貴重な映像である。また既に亡く  
なった逸棄弾被害者証言記録も含まれている。

(相馬さんの写真はABC企画委員会の「毒ガス展」パネルに多数使用されている)

今回、演出・撮影者の相馬一成さんと調査に同行・協力した山邊悠喜子さん、宮崎  
敦四郎さんの3人に、1992年～94年の中国調査当時のエピソードを語っていただきま  
す。

**日時：3月29日(土) 15時～17時**

**会場：中野勤労福祉会館・3階**

JR中央・総武線「中野駅」南口下車、徒歩5分

**参加費：300円**

※ 当日(29日) 13時～15時、同会場にてABC企画委員会の「総会」を行います。併せ  
てご参加下さい。

701 毒物の歴史と毒ガス問題を追究する  
**主催：ABC企画委員会**

〒187-0045 小平市学園西町1-22-15 サントピア並木101

☎/FAX:042(348)1127

日本鬼子の置きみやげ  
上映とトーク

相馬一成さん 山邊悠喜子さん 宮崎教

耕造さん



講演と討論会へのお誘い

# 「ABC」問題は解決できるのか

—大量虐殺史・日本の植民地支配

戦争責任との関連で考える—

間もなく戦後70周年を迎えようとしているが日本国においては、ABC兵器や原爆問題の解決は依然として見通しが立っていない。「731部隊」も「毒ガス」もそして「原爆、原発」の歴史事実は、政府も市民も知っていることなのに何も解決されていない。

よく戦後補償問題では日本とドイツが対照的に比較されるが、両国の根本的な違いはどこからきているのか？そして今後日本が東アジアのなかで、特に韓国や中国とどのような関係を結んでいくべきなのか？

昨年半年間ほどドイツ、イギリス、イタリアで講演、交流してこられた松村先生に、ABC（生物兵器/化学兵器/核兵器）の歴史と現状を踏まえて基本的な問題提起をしていただきます。一緒に考えてみませんか。

**講師：松村高夫氏**（唐広義塾大学名誉教授）

専攻：イギリス社会史・労働史、日本植民地労働史。

主著：『731部隊作成資料』（1991）『論争 731 部隊』（1994）『戦争と疫病』（1997）『満鉄労働史の研究』（2002）『大量虐殺の社会史』（2007）『裁判と歴史学』（2007）他。

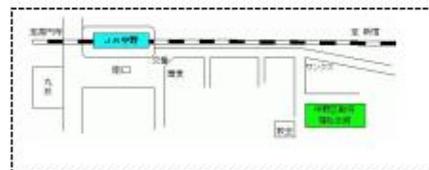
**日時：12月21日**（土）13時半～16時半

**会場：中野勤労福祉会館-3階**

JR 中央・総武線「中野駅」南口下車

徒歩 7分

参加費：500円



731 部隊の歴史事実・毒ガス問題を追究する

**主催：ABC 企画委員会**

〒187-0045

小平市学園西町 1-22-15-101

電話：042-348-1127 FAX：042(344)1430

# 歴史学から問う 戦争責任追及

ードイツの補償請求運動の実態を正しく知るためにー

**ドイツは**、日本と同盟して第二次大戦に敗北しましたが、戦後のドイツは、敗戦後40年を機に、当時の西ドイツ大統領の「歴史に目を閉ざすな」というメッセージを通じて、日本のリベラルな人たちの模範とされてきました。しかし、その実情はどうだったのか？ 日本とドイツの岐路はどこにあったのか？

**矢野久先生は**、ドイツ現代史の歴史家として、ナチ時代の労働史研究、戦後ドイツの労働移民の研究、さらに戦争責任、戦後補償の問題解明についても研究を発表されてきました。また、政治的課題の実態と歴史研究の関係についても発言されており、歴史学習の意欲を鼓舞されています。

今、日本と東アジアの国々とは危険な対立関係に直面していますが、その根拠に戦争責任の問題があります。ドイツの歴史を正しく理解し、日本の取り組みに生かすことは、喫緊の課題の一つでしょう。ぜひ、矢野先生のお話を聴いて、一緒に考えませんか？

**講師：矢野久氏** (慶応義塾大学経済学部教授、ドイツ社会史・労働史専攻)

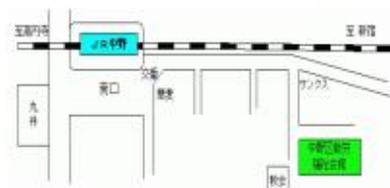
主な著書：『ナチス・ドイツの外資—強制労働の社会史』(現代書館)、『労働移民の社会史—戦後ドイツの経験』(現代書館)、  
『ナチズムの口々の20世紀』(朝日選書)、『ドイツ社会史』(有斐閣)、  
『大量犠牲の社会史』(ミネルヴァ書房)、『戦時と歴史学』(現代書館)。

共編者

**日時：7月13日(日)** 13時半～17時

**会場：中野産業振興センター・大会議室** 参加費500円

(旧・中野区勤労福祉会館) JR中央・総武線「中野駅」南口下車・徒歩5分



731部隊の歴史事実・毒ガス問題を追求する  
主催：ABC企画委員会

# 『「731部隊」罪行鉄証』出版

## 「七三一部隊」罪行鉄証

關東憲兵隊「特移扱」文書

中国黒龍江省档案馆  
中国黒龍江省人民对外友好協会 編  
日本 ABC 企画委員会

中国  
黒龍江人民出版社

秘

佳憲高第四七號

持移廣施ニ關スル件報告

佳木新憲兵隊長宇津木孟雄

昭和拾六年七月卅壹日

關東憲兵隊司令官原守殿

七月九日關憲高第六七二號以下各號ニ基ク左記

者ハ七月二十八日持移セルニ付報告ス

左記

蘇謀 王明春 (昭六七九、關憲高第六七二號ノ分)

蘇謀 黃文萃 (昭六七二、關憲高第六九〇號ノ分)

蘇謀 李長義 (昭六七二、關憲高第六九一號ノ分)

蘇謀 任殿曹 (昭六七五、關憲高第七一〇號ノ分)

蘇謀 周景生 (昭六七七、關憲高第七三三號ノ分)

蘇謀 徐子峯 (昭六七八、關憲高第七三四號ノ分)

報告先 關憲司

151

16/8/4

秘

半截河憲高第一三五號

關東憲兵隊司令官原檢

東安憲兵隊長野檢

蘇聯謀者、趙成忠、取調  
狀況ニ關スル件報告

(昭六六三、半截河憲高參照)  
第八九號

昭十六年七月十二日

半截河憲兵分遣隊長 日比野龜三郎

東安憲兵隊長 白濱重夫殿  
首題ノ件別冊ノ通り報告ス

報告先

ピストンニ對シテ利用價值ナク持移テ之

發送先

關憲司 四參

東特機 寫陸下乙

陸軍中

1

006

秘

秘

秘

陸軍

陸軍

全身像



蘇聯諜者朱雲岫馬真

側面像



正面像



050

二課

國東憲兵隊司令官點檢

秘

東女憲兵隊第一五四號

蘇聯諜者王振遠柳留

取調狀見之圖公此件報告通牒

東安憲兵隊長白濱

安憲兵隊長北爪信



榮卓

執行

Vertical handwritten notes on the left side of the page, including names like '田本吉郎' and other illegible characters.

吉林省档案馆所藏

# 「七三一部隊」罪行鉄証

特移扱・防疫文書編集

中国 吉林省档案馆  
日本 日中近现代史研究会 編  
日本 ABC 企画委員会



中国・吉林人民出版社

# 歩平氏をしのぶ

ABC企画委員会・刊行物のご案内 2018.6

## 友好、和解への架け橋 ——歩平さんをしのぶ追悼文集——

ABC企画委員会編  
B5判ソフトカバー 146頁 頒布価格 1,000円



2016年8月に急逝された歩平さんの追悼文集。各界からの追悼文、思い出の手記など歩平さんの足跡を一冊にまとめました。生涯を日中平和、友好のためにささげた歩平さんを記憶するとともに、平和学習の教材として広く読んでいただければ嬉しく思います。

※内容一部紹介：旧日本軍の毒ガス問題（毒ガス検閲歴史、達達毒ガス国際シンポジウム開催、対台島反論）、小林よしのり『戦争論』反論、日本軍の性暴力、歴史認識と相互理解、南京からロシマへ等論文及び書籍「序文」「推薦」文など。

部数に限りがありますので、お早めにお求めください。地方発送も承っております。

問い合わせ先

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-22-15-1F  
TEL/FAX 042(348)1127 郵便振替 00140-7-59255

A（核兵器）、B（生物・細菌兵器）、C（化学兵器）による人類の負の遺産を検証、加害と被害の対話を目指してきた、稀有な市民活動の記録。  
1995年創刊号発行から2019年までの既刊号「ABC企画ニュース」を四冊にまとめた。  
現代史の隠された証言がここによみがえる!!

現代史研究者、社会学研究者にも必見の資料集。

〈歴史を知る、考える、未来へつなぐ〉市民運動 25年の歩み

## 「ABC企画ニュース」合冊本

### 第1集

1995年7月～2001年11月

### 第2冊

2002年1月～2008年12月

### 第3冊

2009年2月～2014年12月

### 第4冊

2015年2月～2019年12月

B5判 平均 350頁  
各冊 3,000円



発行 2020年11月

発行元・購入お問合せ：ABC企画委員会

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-22-15-101 電話/FAX 042(348)1127

旧日本軍731部隊、細菌戦、毒ガス戦の実態。中国の戦跡ツアーの記録、地元住民との対話の記録、調査報告、戦争責任問題、戦争被害賠償裁判記録など、は現代史研究の死角でもあり、貴重な資料である。改めて市民による市民のための歴史の創造、思考と行動の原点を教えてください。

大学、公的図書館にぜひ、おそなえください。

数に限りがありますのでお早めにお求めください。（4冊セット割引あり）

# スタディーツアー

## ABC企画のスタディーツアー

731部隊遺跡保存の現状と、侵略戦争の実態を知って頂きたいという思いで2000年5月、初めて「スタディーツアー」を企画しました。黒龍江省ハルビンの731部隊本部参観を主に731部隊各支部跡、東北地方の日軍侵略の爪痕を訪ねています。

- 第1回 2000年5月 「哈爾濱・孫呉・黒河」訪問と平房区政府、省文物管理局と世界遺産登録に向けた意見交換を行う。(7泊8日)
- 第2回 2001年6月 「哈爾濱・東寧」「哈爾濱・孫呉・黒河」2コースに分かれる。「要塞」見学と遺棄毒ガス被害者証言聞き取り。(7泊8日)
- 第3回 2002年8月 「哈爾濱・チチハル・ハイラル・ノモンハン」「哈爾濱・長春・瀋陽」2コースに分かれる。(7泊8日)
- 第4回 2003年10月 「哈爾濱・鶴西・密山・虎林、虎頭」訪問。731部隊「特移扱」被害者遺族証言聞き取りと「要塞」参観。黒龍江省社会科学院研究員同行。
- 第5回 2004年6月 「哈爾濱・チチハル・安達」訪問。731部隊と毒ガス部隊・516部隊跡参観。チチハル「8・4」遺棄毒ガス事故現場調査と証言聞き取り。(7泊8日)
- 第6回 2005年6月 「北京1855部隊を訪ねる。1855部隊と第二科跡を参観。(3泊4日)
- 第7回 2005年9月 「哈爾濱・牡丹江・綏芬河・東寧」訪問。(9泊10日)
- 第8回 2006年6月 「哈爾濱・背蔭河」訪問。ハルビン市政府を訪問し世界遺産登録に向けて要請、意見交換を行う。(4泊5日)
- 第9回 2006年9月 「山東省・731部隊とコレラ作戦跡地を訪ねるツアー」(済南・肥城・徳州・臨清・青島)「済南事件」関連施設と被害者遺族、731部隊「特移扱」被害者遺族証言聞き取りと強制連行関連施設跡参観。(7泊8日)
- 第10回 2007年6月 「哈爾濱・長春・農安・瀋陽」訪問。農安・長春(新京)ペスト発生被害地調査と証言聞き取り。(6泊7日)
- 第11回 2008年7月 「哈爾濱・安達」訪問。安達野外実験場跡参観と「安達」証言聞き取り。ハルビン市内「日本植民地統治時の遺跡地図」完成により市内参観。(4泊5日)
- 第12回 2008年10月 「哈爾濱・林口・牡丹江・寧安・大連・旅順」訪問。(7泊8日) 被害者から見た「開拓団」の観点から旧開拓団跡訪問と牡丹江毒ガス被害者証言聞き取り。
- 第13回 2009年8月 「哈爾濱・榆樹市(吉林省)」訪問。榆樹市から黒竜江省へ「勤労奉仕隊」として強制派遣・労働をさせられた元「老工」証言聞き取り。(4泊5日)
- 第14回 2009年10月 「細菌戦被害地を訪ねる」(常德・衢州・義烏・崇山村・紹興・杭州) (9泊10日)
- 第15回 2010年9月 「哈爾濱・ハイラル・ノモンハン」訪問。旧日本軍毒ガス実験旧跡参観(7泊8日)
- 第16回 2011年7月 「哈爾濱・孫呉・黒河」訪問。「『謝罪と不戦平和の誓い』碑」落成式典。(7泊8日)
- 第17回 2012年8月 「哈爾濱・阜新・瀋陽」訪問。731部隊「特移扱」被害者遺族証言聞き取りと阜新万人坑参観。(6泊7日)
- 第18回 2013年9月 「哈爾濱・ジャムス・鶴崗」訪問。遺棄毒ガス事故現場と鶴崗炭鉱万人坑参観。(7泊8日)
- 第19回 2014年8月 「哈爾濱・安達・満州里」訪問。阿部知子国会議員同行。
- 第20回 2015年9月 「哈爾濱・吉林・敦化」訪問。731部隊陳列館主催「戦後70周年記念シンポ」参加と吉林豊満ダム万人坑、遺棄毒ガス現場参観。(7泊8日)
- 第21回 2016年10月 「浙江省細菌戦被害地を訪ねる」(杭州、衢州・金華・麗水・武義・義烏・崇山村)。NPO法人731部隊・細菌戦資料センターと共催。(7泊8日)
- 第22回 2017年10月 「哈爾濱・背蔭河・鶴西・虎林・虎頭」訪問。(7泊8日)
- 第23回 2018年9月 「要塞と国境の街・東寧・綏芬河と731部隊支部跡牡丹江・林口、哈爾濱の731部隊本部を訪ねる」(7泊8日)
- 第24回 2019年6月 「浙江省・義烏と湖南省・常德を訪ねる」(6泊7日)
- 第25回 2019年10月 「ハルビン(平房)・背蔭河・安達を訪ねる」(5泊6日)

### 黒龍江省

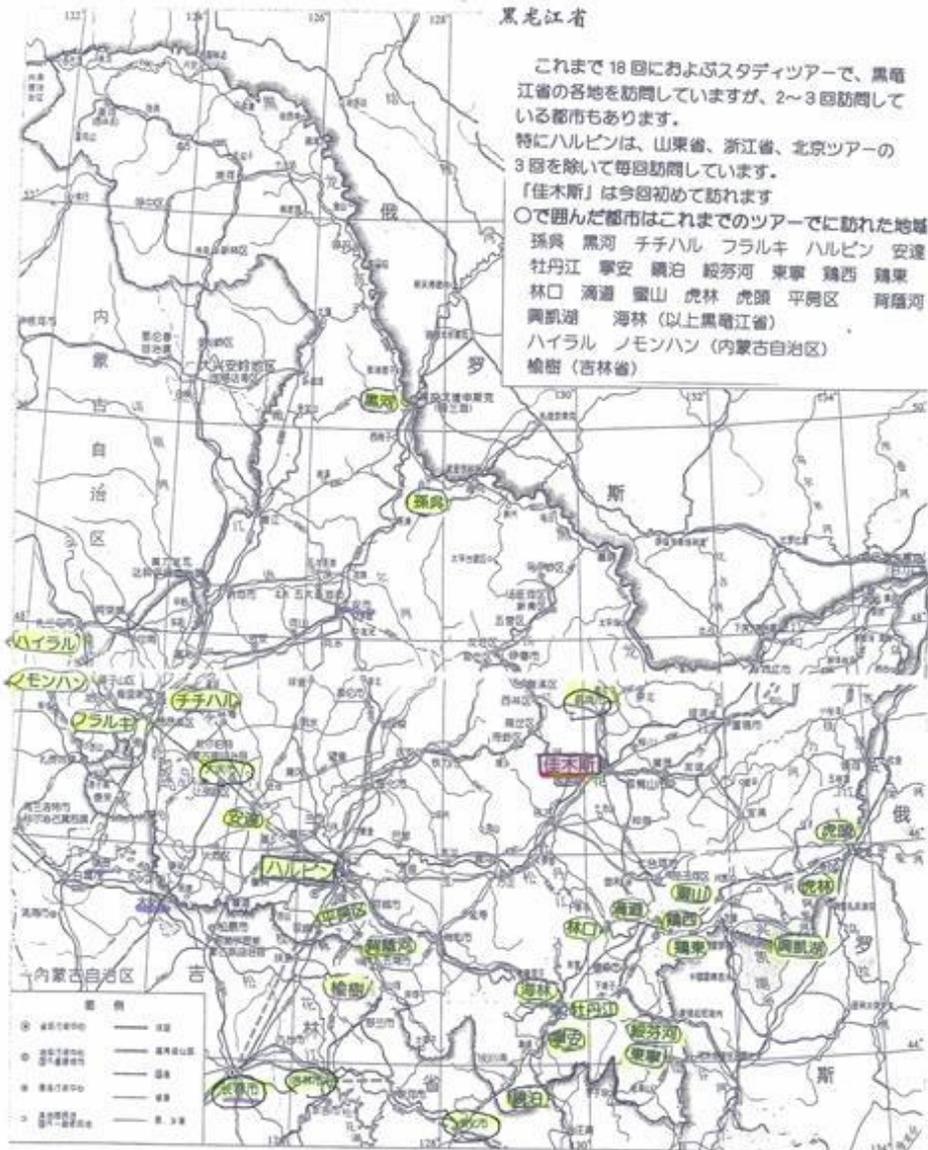
これまで18回におよぶスタディツアーで、黒龍江省の各地を訪問していますが、2~3回訪問している都市もあります。

特にハルビンは、山東省、浙江省、北京ツアーの3回を除いて毎回訪問しています。

「佳木斯」は今回初めて訪れます

○で囲んだ都市はこれまでのツアーで訪れた地域

- 孫興 黒河 斉チハル フラルキ ハルビン 安遠
- 牡丹江 肇安 綏化 綏芬河 東寧 鶏西 鶏東
- 林口 滴道 寧山 虎林 虎頭 平房区 齊爾河
- 興凱湖 海林 (以上黒龍江省)
- ハイラル ノモンハン (内蒙古自治区)
- 榆樹 (吉林省)



2005年9月 東寧 (とうねい)



2006年6月10日 松花江船上



## 山東省、済南・徳州・青島スタディツアー

.....731部隊とコレラ作戦跡地を訪ねる.....

これまでのABC企画委員会のスタディツアーは731部隊本部跡地「ハルビン」を中心に黒竜江省を訪ねてきました。その間、多くの証言者に出会い話を聞くことが出来ました。この証言者の多くが「山東省」出身者であることに気づきました。この原因は何か？。山東省は当時強力な抗日軍が戦っていたと言う。

「731部隊済南支部」があった「済南」・旧日本軍が行った「コレラ作戦」の戦地跡「徳州」・強制連行の搬送地「青島」を中心に731部隊「特移級」被害者の証言を聞くツアーを計画しました。ドイツ風の街並みが広がる避暑地としても有名な青島の一境面も観光したいと思います。ぜひ一緒に！

**旅行期間:9月3日(日)~9月10日(日) 7泊8日**

**旅行代金:18万** (予定、11人以上参加の場合のお一人代金) (空港使用料・5月現在の燃油代含む)

**募集人数:15人** (定員になり次第締め切ります) お一人での参加も大歓迎です。

**申し込み先:ABC企画委員会** 電話・FAX 042(348)1127〒187-0045 小平市学園西町1-26-43

電話・FAX 042-348-1127

**申込み締切り:7月25日(火) まもなく締め切りです!** (7月10日現在11名申し込みあり)

### 旅行日程(案) 2006年5月20日現在案

	月日	都市	交通	行動予定	宿泊予定地
1日目	9/3(日)	東京・成田	航空機	10:30 成田から空路青島へ 12:45 着	済南泊
		青島→済南	専用車	着後専用車で済南市へ(約5時間)	
2日目	9/4(月)	済南	専用車	・731部隊済南支部跡見学。 ・旧日本軍関連遺跡・済南事件(五三事件)跡・ 新華院・琵琶山万人坑など見学。 ・731部隊「特移級」被害者遺族聞き取り予定。	東方大廈
3日目	9/5(火)				
4日目	9/6(水)	済南	専用車	午前:済南から徳州市へ移動	徳州泊
		徳州		・旧日本軍による「山東コレラ作戦」の調査 ・「臨清」衛河の決壊跡へ。	希森大酒店
5日目	9/7(木)				
6日目	9/8(金)	徳州	専用車	午前:徳州から青島へ	青島泊
		青島		・劉連仁記念館見学予定	華能賓館
7日目	9/9(土)	青島	専用車	青島市内遺跡見学など。 ・抗日戦跡・強制連行関連施設等参観。	(予定)
8日目	9/10(日)	青島・東京	航空機	出発まで自由行動または市内観光 13:40 青島から空路東京・成田 17:35 着	自宅

### .....申込書.....

お名前 (フリガナ)		性別	
ローマ字		生年月日	
ご住所	〒 電話・FAX		
一人部屋希望	有り・無し	同室希望者	

2009年10月12日 衢州(くしゅう)





侵华日军第七三一部队遗址



## 浙江省・義烏/湖南省・常德を訪ねる

731部隊は「細菌兵器の実戦使用」を目指して大量に培養された細菌（主にペスト菌）を使用して人体実験、野外実験を重ね、1940年～42年に浙江省、湖南省等々の非占領地や戦場で実戦散布しました。  
 1940年10月4日、豊県にペストノミが撒かれペストが発生し42年義烏に拡大します。常德では1941年11月4日ペストノミが撒かれ多くの被害者が出ています。常德市内のペストは周辺の村々に伝播し現地研究者が追跡調査した結果7,643人（2007年現在）が死亡しています。細菌戦の恐ろしさは「人から人へ、村から村・都市へ」と拡大（伝播、一次感染・二次感染とも称する）していく事です。  
 1997年、日本政府に対し謝罪と賠償を求めた細菌戦被害者裁判は2007年最高裁判決「敗訴」によって終了しましたが未だ被害者の傷は癒えていません。裁判の原告たちも年齢を重ねています。

### 義烏、常德訪問日程（予定） 2019年6/30（日）～7/6（土）6泊7日

月日	都市	スケジュール（予定）	宿泊先
6/30 （日）	羽田	8:40発（MU576便）→上海浦東空港10:30着 ・上海着後専用車で上海市内へ 昼食 ・昼食後夕食・列車内食品など買物 上海虹橋駅16:42発 高速鉄道（G1361予定）義烏へ 18:17着	義烏泊
7/1 （月）	義烏	義烏細菌戦祈念館訪問 細菌戦被害者&遺族と交流 義烏発20:45 寝台列車（K1373予定）で常德へ	夜行列車泊
2日（火）	常德	9:52着 ※現地視察と交流他	常德泊 （3泊）
3日（水）		湖南省細菌戦研究所訪問&研究者と交流 市内被害地調査と被害者&遺族と交流	
4日（木）		石公橋鎮被害地調査と交流 洞庭湖見学	
5日 （金）	常德→南県→長沙	常德から専用車で「南県麻コウ虎殺記念館」見学後「長沙へ」 長沙市内見学	長沙泊
6日 （土）	長沙	7:50発（MU5368便）→上海浦東空港9:55着 上海浦東 13:05発（MU539便）→羽田16:45着	自宅

■日程:2019年6月30日（日）～7月6日（土）6泊7日

■募集人員:15～18人 費用実質183,000円

■費用:19万前後(予定) 別途シングル代金:2万円前後(予定)

(3月現在燃油サーチャージ、空港税、国際観光旅客税、保険等含む)

■申込み締切り:5月10日(但し定員になり次第締め切ります)

主催:ABC企画委員会 (A・B・Cは「終、生物兵器、化学兵器」の漢語名頭文字)

:NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター

# 2019年7月5日 廠審 (しょうこう)



旧日本軍による侵略の爪痕を検証するスタディツアー

— 哈爾濱・孫吳・黒河を訪ねる —

黒竜江省景名の園地の町「黒河」と、昔て日本侵略者が「大きな孫呉と小さなハルビン」と持った園地帯の  
 壮大な軍事施設を遺した「孫呉」を訪ねます。今も山中に保存する「要塞」、731部隊孫呉支部、旧日本軍関連施設  
 跡を参観し加害者として侵略戦争の真実を一緒に検証して見ませんか。

また、60周年に設立を目指した『謝罪碑』が今夏完成します。皆さんの賛金によって実現した謝罪碑です。  
 完成を祝うと共に改めて731部隊遺跡をじっくり参観したいと思います。是非ご参加ください。

**日程:Aコース 2011年7月8日(金)～15日(金) 7泊8日**

※Bコース:7月8日～11日(月) 3泊4日 平房・ハルビンのみ参加

ツアー日程(案)

費用:172,000円 (予定)

Bコース128,000円(予定)

※一人部屋別途追加費あり。

※航空運賃、宿泊費、観光費、食費、空港使用料、  
 航空保険、燃油サーチャージ(4月現在)含む。

※『謝罪碑』除幕式開催時は別途追加費追加予定。

募集人員:20名

申込締切り:5月31日(火)

定員にむかひ次第締め切ります。

※Bコース希望の方は早めに連絡を。

主催/申込み先

731部隊・要塞をめぐり検証する  
**ABC企画委員会**

〒187-0045 小平市学芸西町1-22-15-1F

電話/FAX:042(348)1127

振当旅行社:全日本中国旅行社(株)

101-0068 千代田区神田淡路町1-4-8 HT淡路町ビル4F

電話:03(3257)1271(担当:古門)

※・・・・・・・・・・・・・・・・切取り線・・・・・・・・・・・・・・・・

ツアー申込書

(ふりがな) お名前		性別 生年月日 <small>[優美な付け印]</small>
ローマ字	希望コース A ・ B	
ご住所	〒	
	電話/FAX E:mail	
一人部屋希望	有 ・ 無	同室希望者名
		パスポート 有・無

月日	行程案	宿泊予定地
1 7月 8日 [金]	新潟空港集合・11:15発→ハルビンへ ハルビン空港13:40着陸、平房へ。 731部隊遺跡見学【野付橋河原・兵器 庫・田中庭・ガス路全蓋・拾水塔跡等】	平房
2 9日 [土]	『謝罪と不穏平和の誓』見学。 731部隊遺跡陳列館と家内遺跡見学 [接客車又は遊覧との交流予定]	哈爾濱
3 10日 [日]	ハルビン市内の731部隊遺跡めぐり 本道民院治時期の遺跡等も参観。 ◎コース参加者20:57発旅行列車で 黒河へ	◎コース 哈爾濱泊 ◎車中
4 11日 [月]	◎ハルビン8:00発→新開11:15開園へ。 ◎コース 早朝「黒河」着。 「黒河・瑛環要塞」◎旧関東軍施設研 究、園地の町を見学。	◎自宅 黒河
5 12日 [火]	黒河 [列車又は専用車] → 孫呉へ 陳列館と市内遺跡見学 [家人会館等]	孫呉
6 13日 [水]	孫呉支那 [673支那] 跡、第五国境守 衛隊遺跡等見学と研究者との交流。 孫呉 21:30 発 [EK7084] ハルビンへ	車中
7 14日 [木]	早朝ハルビン到着 市内観光◎ショッピング等自由行動可	哈爾濱
8 15日	ハルビン8:05発→新潟11:15着解散	自宅

# 謝罪碑 落成式① (2011年7月9日)



# 谢罪与不战和平之碑

## 谢罪与不战和平之碑

侵华日军第七三一部队在中国犯下了世界历史上史无前例的国家级罪行。我们作为加害国的市民向那些被杀害的抗日战士以及众多无辜的中国人民和他们的遗属真诚谢罪。

我们在此立誓，以史为鉴警示后人，永不犯同样的罪行。

2010年8月15日

日本财团联合会

謝罪と不戦平和の誓い

『謝罪と不戦平和の誓い』碑について  
〈碑文・日本語〉

中国を侵略した日本軍731部隊は世界史上類をみない国家的犯罪を犯しました。

私たちは加害国の市民として、惨殺された抗日戦士をはじめ多くの罪のない中国人民とその遺族に対して、心から謝罪します。ここに歴史を教訓として後世に語り継ぎ、再び同じ過ちを犯さないことを誓います。

2010年8月15日

日本ABC企画委員会

# 謝罪碑 落成式② (2011年7月9日)





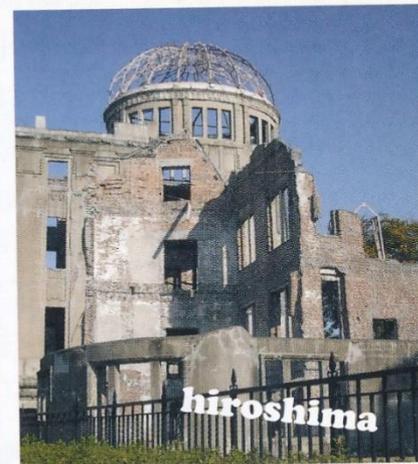
《アウシュヴィッツ》《広島原爆ドーム》に続く 世界で3番目の「負の世界遺産」登録を目指して



1979年認定



動力班 (ボイラー室) と引込線



1996年認定

731部隊遺跡を 世界遺産に!!



731 部隊本部棟



凍傷実験室



陶器細菌爆弾製造所



兵器班



黄鼠飼育室

アウシュヴィッツ(1979年)、原爆ドーム(1996年)に続く第3番目の「負の遺産」を目指して

# 731部隊遺跡を世界遺産に!!

## 731部隊とは

1931年の[9・18]事変を機に、日本は中国東北部を占領し、偽滿洲国を設立して14年にわたる植民地統治を敷きました。1936年秋、勅令によって関東軍防疫給水部(石井部隊)が正式に編成されました。1938年6月、ハルビン市郊外の平房地区一帯、6平方キロメートルにわたる広大な地域を「平房附近特別軍事地域」として住民を強制的に立ち退かせ、日中戦争の長期化、さらに対ソ戦の脅威をにらんで細菌研究、実験、製造の巨大な悪魔の施設(731部隊)を作りました。

施設の中では医学部教授をはじめ、医師たちが軍事医学研究の名を借りた殺人に手を染めました。

また、各地の憲兵隊は、逮捕した反満抗日の戦士や一般住民などを「ソ課(ソ連諜報員)」の名目で、司法の手続きを経ることなく『特移扱』として731部隊に送り、細菌戦、凍傷、毒ガス戦など様々な実験材料として使用しました。ひとたび731部隊に連れて来られた中国人、朝鮮人、ロシア人、モンゴル人は人間であることを抹殺されて『マルタ・丸太』と呼ばれて殺害されました。その数は3000人以上とされています。

旧日本軍は1940年より中国各地で、国際法に違反した非道な細菌戦を実施、その死傷者は数万人以上とされています。敗戦前夜、口号棟の七・八号棟(特設監獄)に囚われていた人々を、証拠湮滅のため全員を殺害、施設をすべて破壊して逃亡しました。幾多の恨みを含んだ人々の鮮血に染まった遺跡群は、現代の私たちに戦争の悲惨さを強く訴え続けています。



小動物地下飼育室

## 日中両国の《平和教育の基地》として永久保存を!

私たちは1993年7月の「731部隊展」開催以来、中国黒竜江省ハルビン市平房区にある「旧関東軍第七三一部隊遺跡」を永久保存するために募金活動を進めています。

1993年当初「731部隊遺跡保存の会」と称し、各地で開催された「731部隊展」をよりどころに募金を集めて1995年8月15日、『侵華日軍第731部隊罪証陳列館』(新館)が落成しました。

1999年、団体名を「『731部隊遺跡世界遺産登録』を目指す会」と改め、現地中国と緊密な連携をとりながら、世界遺産登録を目指して民間レベルでの友好交流を深め、2011年7月には、侵略を許した拭い去れない過去への深い反省を込めて「『謝罪と不戦平和の誓い』碑」を建立することができました。

2012年9月、中国政府は731部隊遺跡を「世界遺産登録候補地」に認定し、2014年2月にはハルビン市内の関連遺跡6カ所を追加して「731部隊遺跡群」として世界遺産登録申請に向けて力を注いでいます。

アウシュヴィッツ、広島原爆ドームに続く第三番目の「負の世界遺産」として永久保存を目指し、皆様から寄せられた募金は黒竜江省対外友好協会を通じて中国銀行に預け、利子を遺跡保護に活用できるよう「基金」設立を目指して積み立てています。2014年現在、目標とする額には未だ達していません。不戦平和の象徴としての731部隊遺跡保存に賛同・ご協力をお願いいたします。

※2019年3月19日、侵華日軍第731部隊罪証陳列館において

「731部隊遺跡保存・研究と日中平和交流基金」調印式が行われ、「基金」が創設しました。



## 「謝罪と不戦平和の誓い」の碑

ハルビン市平房区「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」に建立。

碑文『中国を侵略した日本軍731部隊は世界史上類をみない国家的犯罪を犯しました。私たちは加害国の市民として、惨殺された抗日戦士をはじめ多くの罪のない中国人民とその遺族に対して、心から謝罪します。ここに歴史を教訓として後世に語り継ぎ、再び同じ過ちを犯さないことを誓います。 2010年8月15日 日本ABC企画委員会』

## 『731部隊遺跡世界遺産登録』を目指す会

代表 田中 寛（大東文化大学教授）

ABC企画委員会 共同代表 田中 寛／宮崎 教四郎

〒187-0045

東京都小平市学園西町1-22-15 サントピア並木101号

電話・FAX：042(348)1127

郵便振替口座：00190-5-176134

口座名：「731部隊遺跡世界遺産登録」を目指す会

# 新館建築の呼びかけ

前事不忘 後事之師 (過去を忘れず未来の教訓とする)

## 「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」新館建設 と 現場保存のための募金の呼びかけ!

— 日中人民の共同の事業にご参加ください —

細菌戦や人体実験など、非人道的な戦争犯罪をおこなった日本軍第731部隊。  
今、この731部隊跡地(ハルビン・平房)に「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」  
の新館建設が進められています。あわせて、風化の激しい731部隊遺址の保存修理  
も計画されているということです。日本軍の罪証を歴史に刻み、後世に伝え教訓化し  
ようとする中国側のこの歴史的事業に、私たちは心からの敬意と賛同の意を表したい  
と思います。

しかし、伝えられるところによりますと、抗日戦勝利50周年の'95年にオープン  
をめざした建設も、経費の不足(新館建設費だけで120万円=約2,000万円の不足)  
という問題に直面し、現在工事の進行もままならないという状態に追い込まれて  
います。

“731部隊とその現場”は、かつて日本軍国主義がつくり出した、侵略の所産で  
あることを考える時、中国側のこの事業に、私たち日本人が無関心であって良いはず  
がありません。むしろ「支援と参加」こそが私たちのとるべき重要な戦争責任であろ  
うと思います。

おりから、わが国では中国側の全面協力を得て「731部隊展」が成功裡に行われ、  
隠されつづけた侵略戦争の事実が明らかにされつつあります。こうした取組みは戦後  
の歴史の中でも初めてのことでありますが、私たちはこのエネルギーをさらに発展さ  
せ、「陳列館新館建設」と「現場保存」に向けた日中共同の事業に結実させていきな  
いと思います。

陳列館新館建設と現場保存のための募金に一人でも多くの人々の参加を心より訴え  
ます。

「侵華日軍第731部隊罪証陳列館新館建設と現場保存」募金の会

日本のみなさんへ!



韓曉氏(侵華日軍第731部隊罪証陳列館々長)

## 731部隊の犯罪を歴史に刻み 世界の人々の学習と教訓の場とするために

今、日本全国各地で731部隊展が非常に喜ぶべき成果をあげられていることを伺い、私は「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」と中国の被害者遺族を代表して、日本の平和人士に心からの感謝を表します。

731部隊の遺址を訪れる外国人参観者は毎年4,000名ですが、その内日本人は80%以上を占めています。私は731部隊の遺址が中日两国人民の教育の中心地となっていることをとても嬉しく思っています。しかし、現在731部隊陳列館は本部跡の265平方メートルの部屋に設けられ、陳列方法・内容とも充分とはいえず、21ヵ所の遺址もまだ開放できる状態ではありません。

そこで、私たちの731部隊陳列館の十分な作用の發揮、国際的な歴史学術交流やより良い社会的な効果をあげようとする構想が、国と黒龍江省とハルビン市政府の重視する所となりました。そして、1992年より120万元(人民幣)の支出を受け、731部隊運輸班址に、1800平方メートルの三階建ての新館を建てることになりました。同時に21ヵ所の遺址の保護を強化することに致しました。'94年8月竣工し、東北が人民の手にもどった50周年の記念日には国内外に開放したいと思っています。

ところが、新館建設のレベルを高め、中日两国人民の委任に背かないような水準にするためには、どうしても120万元(人民幣)の資金が不足することが判明しました。さらに遺址の修理に100万元、陳列物の製作費に60万元不足することが明らかになりました。私たちは、新館建設は中国人民の責任であり、困難を解決して陳列館を建設する責任があると考えています。

そのような折、日本の平和人士の方々から、731部隊陳列館建設はその大義名分から言って日本人が黙視できないことであり、遺址保護も行おうとの呼びかけがされたと聞きました。これは私もとても感動させられると同時に責任を痛感した次第です。

私は、中日双方が共同で努力すれば、必ず731部隊陳列館を立派に建設できるものと確信します。中日两国の次の世代が731部隊遺址で教訓を得た時、きっと彼らは建設に尽力された先人達に敬意を表することでしょう。私たちの合作成功を祈念します。



731部隊罪証陳列館新館予想図

### 《731部隊罪証陳列館新館概要》

■総面積1800㎡。地下(ボイラー室) 1F(接待室・ビデオ室等) 2F(陳列館) 3F(文書室・撮影室・事務室等)

#### ■展示について

\* 文物、写真、文献等約1000点、模型、立体復元模型、照明付き展示(ガラスケース)、顕微鏡など音と光で効果的に展示。

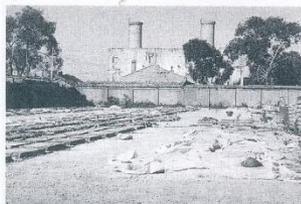
\* 補助陳列室では定期的に内容を変える。毒ガス展や広島・長崎の原爆展、中日書画展、東北侵略史展など。



## 風化させてはならない歴史の証拠

### — 731部隊遺址の現状 —

左の平面図は731部隊の重要な施設があった所です。1945年8月、731部隊は証拠隠滅のためここを破壊して逃走しました。そのため残されたものはわずかですが、それらも50年の風雪で老朽化が激しく、保存対策は急務となっています。



③ 捕虜(「マルタ」)監獄跡 ↑



② ガス発生室 ↑



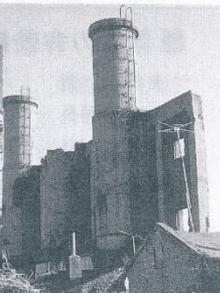
① 731部隊本部 ↑



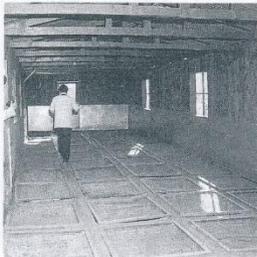
⑦ 黄ネズミ飼育室 ↓



⑥ ワクチン貯蔵室 ↑



⑤ 冷凍試験室 (吉村班) ↑



↓ ⑧ 山口班 (細菌爆弾)



⑨ 引込線 ↑



⑩ 航空班 ↑

「侵華日軍第731部隊罪証陳列館新館建設と現場保存」募金の会会則

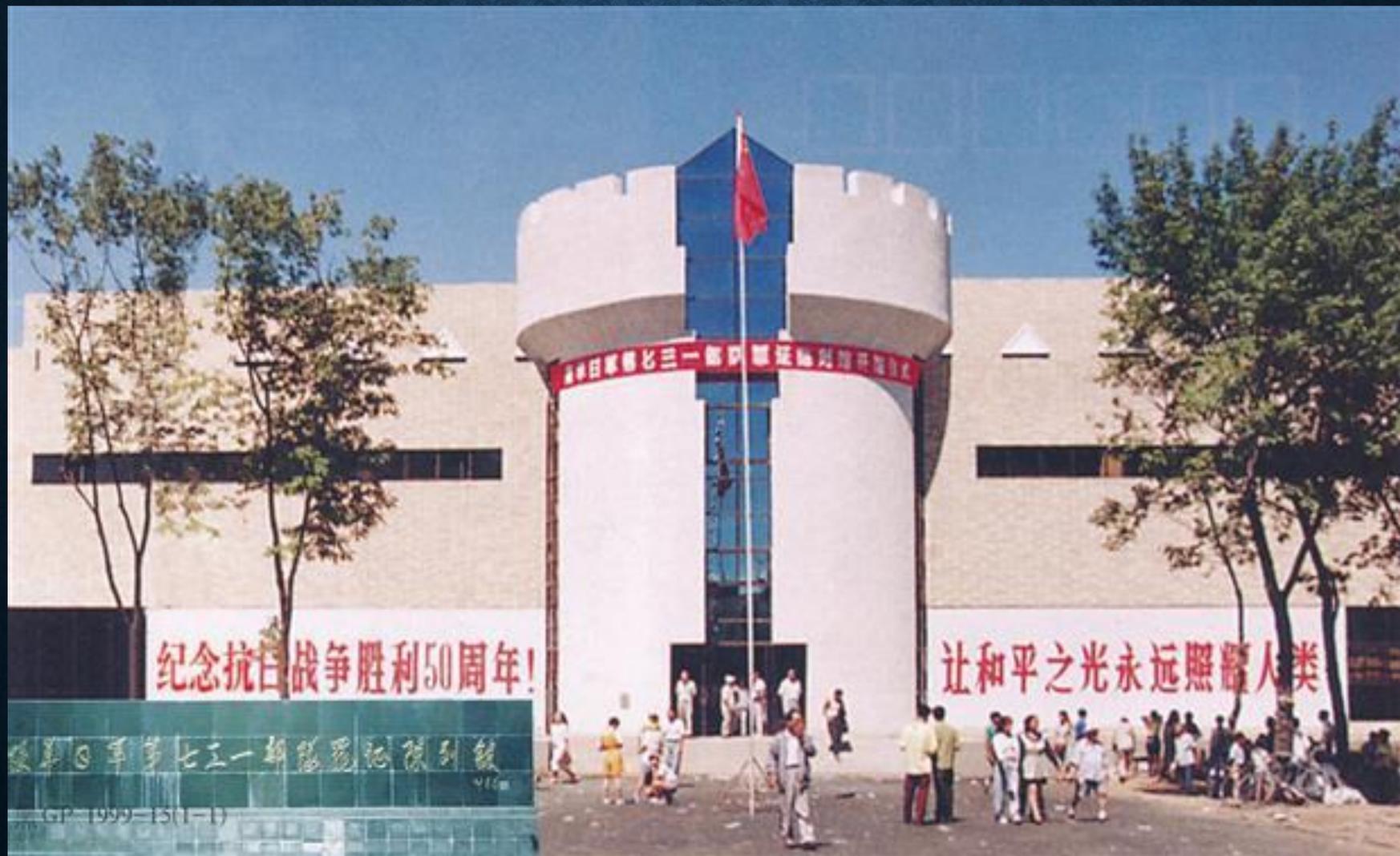
- 第一条 この募金は「侵華日軍第731部隊罪証陳列館新館建設と現場保存」募金と呼び、以下に会則を定める。
- 第二条 この募金の会の事務所は、東京都新宿区新宿1-36-5ラフィネ新宿201「南新宿法律事務所」内におく。
- 第三条 この募金の目標金額は4,000万円とする。内訳は新館建設費用2,000万円、遺跡修理費用に1,400万円、陳列物制作費に600万円である。
- 第四条 この募金の目的は、日中共同で「侵華日軍第731部隊罪証陳列館新館」の建設及び関連遺跡の調査・発掘・保存を行い、日本軍国主義の罪証を後世に伝え、教訓を学び、恒久の平和友好に寄与することにある。
- 第五条 募金は世界平和を願うすべての人々を対象として募集する。送金先は第二条の事務所とする。
- 第六条 募集した資金は中国ハルビン市平房区新疆大街「侵華日軍第731部隊罪証陳列館」へ渡される。
- 第七条 この募金を運用するために「募金の会」を設ける。
- 第八条 募金の会は委員長・事務局長・委員で構成し、会は委員長が招集する。会の議事は全員一致で決定する
- 第九条 募金に会計監査2名をおき、6ヶ月ごとに監査を行う。
- 第十条 募金の活動は1994年6月1日から2年間とし、必要に応じ延長することができる。

■募金の会委員 (’94.9.1現在・さらに拡大中です)

- 代表 森川 金寿 島田 政雄 富永 正三 松谷みよ子 伊東 秀子
- 事務局長 山辺悠喜子
- 会計 和田千代子
- 委員
- |              |            |            |
|--------------|------------|------------|
| 村田 歩(北海道)    | 糟川 良谷(宮 城) | 鈴木 郁子(群 馬) |
| 菊池 実(群 馬)    | 梅 靖三(千 葉)  | 三嶋 静夫(市 川) |
| 岩根 謙一(東 京)   | 林 栄介(東 京)  | 持地邦太郎(東 京) |
| 湯浅 謙(東 京)    | 三尾 豊(東 京)  | 元山 俊美(東 京) |
| 渡辺 登(東 京)    | 石川みのり(東 京) | 須見 正昭(川 崎) |
| 遠藤 宏一(神奈川)   | 中村 克郎(山 梨) | 森 一敏(金 沢)  |
| 松井 清(金 沢)    | 小山 正明(新 潟) | 高橋 正博(新 潟) |
| まゆずみただし(新 潟) | 岩崎 賢吉(静 岡) | 浅沼 保(静 岡)  |
| 藤本 治(静 岡)    | 森 正孝(静 岡)  | 高原 一郎(福 井) |
| 上杉 聡(大 阪)    | 西本 章(福 山)  | 由木 栄司( 呉 ) |
| 葛西よう子(長 崎)   | 家永 武男(福 岡) | 鶴田 恒郎(鹿児島) |

■振込み先 ■郵便振替… 00140-2-720959 「731新館建設募金」

■当面の連絡先 TEL・FAX 03-3226-7310













侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館





侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館

# 日中平和交流基金設立(2019年3月)



# 日中平和交流基金 (2019年3月)











# 「原爆」無差別爆撃の犯罪性と責任問題 —その徹底的追及が今必要な理由—

講師 田中 利幸さん 歴史学者 元広島平和研究所教授

2016年11月25日(木) 中野産業振興センター 主催 企画委員会

原爆「犠牲」の歴史 平和教育コン  
ソシアム、東洋大学等の教育者  
と連携して、東野シドコロ、中  
野産業振興センター、アメリカ友好協  
会、中野市財団等が主催する。

2016/11/25 18:05

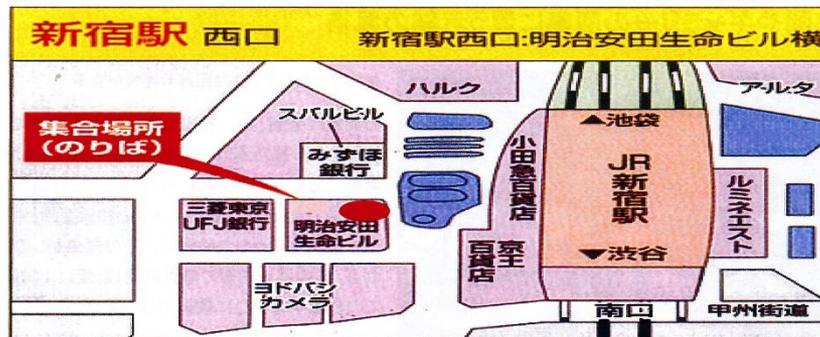
# ABC企画員会 長野平和の旅

満蒙開拓平和記念館・杵原学校・飯田市平和祈念館資料室・松代大本営

2019年5月23日(木)～24日(金)

## 【ご出発案内】

○集合：5月23日(木) 新宿駅西口 安田生命ビル横 8時集合/出発



☆当日緊急連絡先 090-8315-9427 ※「長野平和の旅」ステッカー目印

○行程：

- ① 新宿駅西口 == 関越道 == 上信越道 == 横川 SA == 松代 PA (各自昼食) ==  
8:00発 ☆車内にて訪問地説明 11:45~12:30  
== 長野 IC == 松代大本営 (象山地下壕、天皇御座所) == 上諏訪温泉(泊)  
13:00~16:00 17:00着 ☆交流夕食会
- ② 上諏訪温泉 == 中央道 == 杵原学校 (体験授業) == 満蒙開拓平和記念館 (見学)  
8:00発 9:30 ☆有形文化財  
== 飯田市平和祈念資料室 (見学) == 駒ヶ岳 SA (各自昼食) == 諏訪湖 ==  
12:15  
== 双葉 SA == 勝沼 == 八王子 == 石川 PA (休憩) == 新宿西口  
17:30着

○宿泊：上諏訪温泉 鷺の湯 TEL: 0266-52-0480

※お部屋は男女別の和室(4~5名予定)となります。

【企画】ABC企画委員会 【協力】撫順の奇蹟を受け継ぐ会東京支部

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-22-15-1F TEL/FAX:042(348)1127(留守電)

<旅行手配・実施&お問合せは>クラウン観光社 東京都知事登録旅行業第3-547

TEL03(3962)8475/FAX03(3962)8478

# 731部隊関連資料の公開を求めて

戦後、多くの元731部隊員や化学戦の関係者が自衛隊に入隊しています。私たちは元隊員たちが当時実戦で知り得た情報・研究論文等を掲載していると思われる陸上自衛隊衛生学校及び化学学校発行の内部誌『衛生学校記事』と『化学学校記事』の公開を求めて2013年11月(化学学校は2016年)東京地裁に提訴しました。

## 『衛生学校記事』 情報公開裁判 (第30回)

8月25日(水)

15時～ [103号法廷] 東京地裁民事51部

『衛生学校記事』は、衛生学校の「図書原簿・目録」から嘗て存在していたことが明らかになりましたが、当該個所に二重の赤線が引かれていることから被告は「廃棄した証拠」と主張し続けています。しかし発行当初の『記事』表紙には「陸幕認第8号」「部外秘」と、陸上自衛隊の承認の下に発行されていたことは明らかです。そのような内部誌が、発行元に一冊も保管されていない、廃棄したということは到底納得できません。更に元衛生学校長の金原節三氏が退職後大量の戦史資料と共に『衛生学校記事』も寄贈し更に「金原文庫」まで設立したにも関わらず、今はこの貴重な「金原文庫」の存在さえも不明です。

現在は金原寄贈資料の行方の再調査と、「廃棄した」当時の関係者の証言を要求しています。

## 『化学学校記事』 情報公開裁判(第20回)

11月10日(水)11時～[703法廷] 東京地裁民事3部

これまで防衛省は『化学学校記事』1号～12号(1967年)までの発行は認めたが、私たちが入手し提出した「16号」(1970年)について頑なに発行を認めませんでした。しかし19年末「16号」関係者の証言が得られたとしてやっと「16号」の発行を認めました。また、発行元が「大宮化学学校修親会」と記されている事から「他団体の発行で関係ない」「1冊も保管していない」と主張しています。現在「16号」関係者の詳細証言と何年、何号まで発行していたのかを追及しています。周知のとおり戦前の日本軍は、毒ガス・生物兵器を実戦使用し多数の軍民に残酷な被害を与えました。旧軍を引き継いで発足した自衛隊も発足直後から秘密裏に化学兵器を所持、研究していますが、現在ではCBRN(化学兵器・生物兵器・放射線・核)攻撃への防護のためと称して、研究・演習を行っています。

政府・防衛省の隠蔽体質は民主主義の否定、更に戦争への道にも通じる危険なものです。全資料公開に向けて皆さまの支援、傍聴をお願いします。

### 〈連絡先〉

■NP0法人731部隊・細菌戦資料センター -2020年12月25日現在-  
(共同代表:近藤昭二[ジャーナリスト]・王選[細菌戦犠牲者遺族]) Email:info@ichinoselaw.com  
〒105-0003 港区西新橋1-21-5 一瀬法律事務所 電話:03(3501)5558(元永)  
■ABC企画委員会(代表:田中寛[大東文化大教授])電話:042(348)1127/080-5655-3354(和田)